

研修で  
学校が  
変わる

# 特別支援学級担任研修①

## まとめ

令和3年6月8日（火）



Web会議による遠隔研修（会場校）

## 「児童生徒の実態に応じた自立支援の実際」

講師 園山 繁樹 氏（島根県立大学 教授）

### 【研修のねらい】

■ 特別支援学級における自立活動の理解を深め、児童生徒の実態に応じた指導・支援の充実を図る。

子どもの姿

**実態把握（アセスメント）**  
【場面・人・活動】

これが一番重要！

障害による学習上又は生活上  
の困難を克服し、自立を図る

### 自立活動の指導【六区分】

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定
- 3 人間関係の形成
- 4 環境の把握
- 5 身体の動き
- 6 コミュニケーション

重要

標準化された発達検査等の結  
果を加えるとわかりやすい

「中心的な課題」となる行動  
の実態を具体的に把握する

**実態把握 = 全般的アセスメント + 課題特化アセスメント**

+

**課題特化支援方法**

課題の目標を効果的に達成で  
きる支援方法は何か？

※ 建設的対応 ⇒ 適切行動を増やす

重要

子どもの実態からつけ  
たい力（指導目標）と  
指導内容を考える

「中心的な課題」から長期目標  
と短期目標を考え、具体的な指  
導内容へつなげる

指導による子ども  
の変容を捉える

### 明日への想い（受講者の声）

- ・ 実態把握と目標・支援・活動とがつながっていることがわかった。より深い実態把握に沿った支援をしていきたい。
- ・ 適切な実態把握をすることと、児童の興味のあることから、学習を展開していきたい。
- ・ 児童の課題の解消に向けてのみならず、得意を伸ばしていけるような支援・指導をしていきたい。また、児童の学習意欲を高めるために、児童の興味がある物事と関連づけて学習を進めたい。
- ・ 問題行動への次の3点を心がけていきたい  
1. 建設的対応 2. 予防的対応 3. 事後的対応
- ・ 生徒の行動は、外的要因や心理的要因が関係して引き起こすので、生徒理解に努めていきたい
- ・ 特別支援学級や自立活動の学習に限らず、児童の目に見える行動の背景にあるものを適切に把握し、指導にあたるのが大事だと改めて思った。他の教員にも伝えていきたい。

### 明日への想い（受講者の声）

- ・ 実際にアセスメントを行い、指導計画に反映させようとする過程が手探り状態だったので、一つの指標として、良い面を○、弱い面を△として表すなどのアイデアが参考になった。情報の整理方法が明確になってきた。また、PECSの紹介も参考になった。
- ・ 児童のさりげない行動の裏にある本当の意味を考えることで、正しい実態把握をできるようにしたいと思った。吃音が出ているときは言いにくい言葉があったり、緊張で言葉が出にくくなっていることが多いが、本当にそれだけなのかもきちんと考え、適切な支援をしていきたい。